

「職場残したい」

従業員が事業買収



10月の操業再開に向けて準備するヨカソルの従業員。右は田嶋会長

今年二月に閉鎖された大牟田市四箇新町の太陽電池製造「MSK」福岡工場の従業員らが、EBO(従業員による企業買収)によって会社から事業を買取り、十月に操業を再開する。「職場を失いたくない」と従業員が団結し、地場フアン

大牟田市の太陽電池製造工場

時〓の田嶋教弘さん(五七)は、同社幹部から工場閉鎖を告げられた。昨秋から市況が悪化し、生産調整を続けていたが「まさか、いきなり閉鎖とは。ほづせんとした」。

地場フアンドが後押し

今年二月、東京・新宿のMSK本社。突然呼び出された福岡工場長〓当

「せつかく呼んだ工場を、今月十四日、MSKと事業譲渡契約を結ぶまで、その一念だった。

「よし、やろう」。田嶋さんのもとに残った従業員三十五人の奮闘が始まった。田嶋さんはさっそく本社側にEBOを提案。熟達した従業員こと

「よし、やろう」。田嶋さんのもとに残った従業員三十五人の奮闘が始まった。田嶋さんはさっそく本社側にEBOを提案。熟達した従業員こと

「よし、やろう」。田嶋さんのもとに残った従業員三十五人の奮闘が始まった。田嶋さんはさっそく本社側にEBOを提案。熟達した従業員こと

「よし、やろう」。田嶋さんのもとに残った従業員三十五人の奮闘が始まった。田嶋さんはさっそく本社側にEBOを提案。熟達した従業員こと

■35人の奮闘開始
「私たちがこの工場を



事業譲渡した方が何倍も売却額が高いことから、本社側も理解を示し、解雇期限を延長してくれ

本社の交渉窓口となったのが、当時の財務部長西堀考雄さん(三七)。資金調達のためフアンドを駆けずり回ったが「短期で転売し利益確保する」というフアンド特有の条件

「あれから本番。いい意味でプレッシャーです」。河野さんが表情を引き締めた。

う。工場は、大牟田市の工業団地「大牟田テクノパーク」で二〇〇四年九月に操業を開始した。実は、市の産業振興担当部長として同工場の誘致に奔走したのが田嶋さん。市を早期退職し、工場長に就いた。

■交渉を乗り越え

「ありがとつこいまま」。携帯電話で中継しながら、中西さんらフアンドのスタッフは福岡市で、従業員らは大牟田市で乾杯した。

「あれから本番。いい意味でプレッシャーです」。河野さんが表情を引き締めた。

「あれから本番。いい意味でプレッシャーです」。河野さんが表情を引き締めた。

■本番はこれから

事業継承会社YOCA SOL(ヨカソル)は、九州弁の「よか」とスペイン語で太陽を表す「ソル」を掛け合わせた。従業員みんなで考えた。

田嶋さんは会長に就任。西堀さんは六月にMSKを退社、新社長を務める。「工場を企業として独り立ちさせるため、自分の経験を生かしたい」という単身赴任だ。